

科目名	ネットワークⅡA					
科目名(英)						
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	高倉 美哉	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年					
授業概要	ネットワーク基礎、ルータの基本操作、ルーティング、管理アクセスに対するセキュリティ設定に必要な技術を学習し、小規模ネットワークの構築と運用ができるようになる。 iCDタスクコード : DV04.9.1					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				ネットワークの基本用語、仕組みを説明できる。
	○	○	○			小規模ネットワークの構築ができる。
	○	○				小規模ネットワークの運用ができる。
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1-4	第1章:TCP/IPの概要、イーサネットLANの基礎			TCP/IPとOSI参照モデルの復習を行うこと	
	5-10	第1章:IPv4アドレッシング			整数の2進数、16進数について復習すること	
	11-13	第1章:TCPとUDP				
	14-16	第2章:Ciscoルータへのアクセス				
	17-20	第2章:Ciscoルータの基本操作				
	21-24	第2章:Ciscoルータの基本設定			Ciscoルータの基本設定を練習すること	
	25-29	第3章:ルータの基本設定と確認			Ciscoルータの設定確認方法を練習すること	
	30-33	第3章:ルーティングの基本				
	34-36	第3章:スタティックルーティング				
	37-40	第3章:ダイナミックルーティング				
	41-42	第4章:OSPFの概要				
	43-46	第4章:OSPFの設定と確認			OSPFの設定と確認方法を練習すること	
	47-50	第4章:OSPFのトラブルシューティング				
	51-52	第4章までの復習				
	53-57	IPv4アドレスの復習				
	58-60	第5章:IPv4の標準ACL				
	61-63	第5章:IPv4の拡張ACL				
	64-66	第5章:ACLのトラブルシューティング				
	68-70	第6章:NAT				
71-72	第6章:DHCP					
73-74	第6章:DNS					
75	第6章までの復習					
	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					

評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				40%
	確認テスト		◎				20%
	課題		◎	○			20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	データベース演習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	柴内 加代		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	SQL言語の実行環境を使用し、基本的なSQL操作方法を習得する。 講義と演習を交えて学び、知識を演習を通じてデータベースを定義し、登録したデータに対して条件検索・整列・グループ操作・表結合・副問合せなど、目的に応じた操作技術を習得する。 iCDタスクコード : DV04.3.1						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					データベースとは何か、どのように使用されているか説明できる	
		○				データベースおよびテーブルの定義、更新、削除方法を習得し、操作できる	
		○				テーブルへのデータ登録、参照方法を習得し、操作できる	
		○				テーブルのデータの更新、削除方法を習得し、操作できる	
テキスト・教材 参考図書	翔泳社 SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	第0章 インTRODクシヨン——SQL学習環境を作ろう				SQL言語環境のインストールを完了し、ログインできるようにしておく	
	3-4	第1章 データベースとSQL				章末の練習問題を実施する	
	5-6	第2章 検索の基本				章末の練習問題を実施する	
	7-9	第3章 集約と並べ替え				章末の練習問題を実施する	
	10-12	第4章 データの更新				章末の練習問題を実施する	
	13-17	第5章 複雑な問い合わせ				章末の練習問題を実施する	
	18-22	第6章 関数、述語、CASE式				章末の練習問題を実施する	
	23-27	第7章 集合演算				章末の練習問題を実施する	
	28-30	まとめ				期末試験に向け復習する	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認レポートを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	確認レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	USBメモリを持参すること						

科目名	サーバー構築・運用演習 I A						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	打越 直美・高倉 美哉		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	サーバー構築・運用に必要なLinuxコマンドを講義と演習を通して学習する。また、AWSを使用することでクラウドの考え方やAWSサービスの概要を知る。						
	iCDタスクコード : DV04.4.1、DV04.7.1						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				AWSを利用したインスタンスの作成、アクセスができる	
	○	○	○			Linuxの概念を理解し、基本コマンドが操作できる	
	○	○				シェルスクリプトを使った設定、実行ができる	
テキスト・教材 参考図書	AWSではじめるLinux入門ガイド(マイナビ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	AWS環境準備(画面構成)			自宅PCにターミナルソフトをインストールすること		
	2-3	AWSインスタンス管理(起動、停止、SSH接続)			自宅環境からAWSインスタンスにアクセスできることを確認		
	4	ターミナル基本操作					
	5-7	ユーザーとグループ管理(追加、削除、変更、管理ファイル)					
	8-9	セキュリティの基本(ユーザ管理、パスワード)			指示に従ってユーザ作成、削除、パスワード設定ができること		
	10-14	ディレクトリとファイルの操作(作成、コピー、移動、削除)					
	15-17	ファイル操作(検索・圧縮・アーカイブ)					
	18-21	ファイル操作(標準入出力、リダイレクト、パイプ)			指示に従ってファイル操作ができること		
	22-23	変数、エイリアス					
	24	特別なディレクトリとファイル					
	25-28	エディタ操作(vim)			vimの基本操作(コマンドモード)ができること		
	29-31	ファイル操作(内容表示、並び替え、分割)					
	32-35	パーミッション管理			パーミッションの概念をもとに設定ができること		
	36-42	シェルスクリプト作成、実行			スクリプトの構文を知り、作成と実行ができること		
43-44	パッケージ管理(インストール、アップデート)						
45	総合演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で確認テストを5回実施する (3)実習内容を課題レポートとして提出させる (4)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				30%
	確認テスト		◎				20%
	課題		◎	○			30%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	ビジネスコミュニケーション I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	逢坂 美千代		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		きちんと声を出して挨拶ができる	
	○			○		効果的な自己PRができる	
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる	
テキスト・教材 参考図書	ウイネット 『コミュニケーション技法』 ウイネット、2009						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】				コミュニケーションについて、自分なりインターネットや本で調べる	
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】					
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】					
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】					
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】				コミュニケーションの基本について復習を行なう	
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】					
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】					
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】					
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】				プレゼンテーション内容を事前に考える	
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】					
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】					
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】					
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】					
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】					
15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】						
評価方法	(1)課題・レポートを実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○			○		55%
	小テスト	○					25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高倉 美哉		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	ICT分野を広く知るため、新聞・インターネット記事を参考にICT技術をまとめる。また、今後の就職活動に向けた準備を行う。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎		○		他者とのコミュニケーションが取れる	
		◎		○		新聞・インターネット記事に掲載されているICT技術について発表することができる	
		◎		○		自分が目指すエンジニア像を具体的に説明できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 前期のターム確認			前期の目標を決めよう		
	2	オリエンテーション 年間目標					
	3	業界理解 ICT技術研究1					
	4	業界理解 ICT技術研究2					
	5	業界理解 ICT技術研究3			調査レポートを作成すること		
	6	業界理解 ICT技術研究4					
	7	業界理解 ICT技術研究5			振り返りレポートを作成すること		
	8	就職準備 自己分析、他己分析					
	9	就職準備 自己PR、強み					
	10	就職準備 職種研究1					
	11	就職準備 職種研究2			調査レポートを作成すること		
	12	就職準備 企業研究1					
	13	就職準備 企業研究2			調査レポートを作成すること		
	14	成果レポート作成1					
15	成果レポート作成2						
評価方法	(1)授業に関するレポート、課題提出を評価する。(2)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート		◎		○		80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	高倉 美哉		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	<p>「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・広い視野・知識と深い洞察力・自己を革新する成長力・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力</p> <p>iCDタスクコード 該当なし</p>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					考えることの大切さを理解することができる。	
	○					自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
	○					目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
	○					行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート	
	3	自己を知る				振り返りレポート	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる				振り返りレポート	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート	
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポート	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)毎回の授業でレポートを指示する。(2)授業で取り組むグループワークや発表内容を評価する。 (3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。”						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎		○		80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点・補習・追加課題を行う場合がある。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年・情報システム専攻科2年・情報システム科2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。 中間に授業内評価テスト(2回:各30分)及び期末試験を実施し、理解度を把握し、フォローアップする。 iCDタスクコード 該当なし(基礎知識全般)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(1:仕事算)					
	2	国語分野(1:二語の関係①)、数学分野(2:鶴亀算)・連立方程式の演習					
	3	国語分野(2:二語の関係②)、数学分野(3:損益算)					
	4	国語分野(3:文法)、数学分野(4:速さ・時間・距離)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	5	授業内評価テスト①(数学1~4) 社会:政治経済国語分野(4:語句の意味)、数学分野(5:場合の数)					
	6	国語分野(5:短文の穴埋め)、数学分野(6:確率)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	7	授業内評価テスト②(数学5~6)授業内評価テストテスト					
	8	授業内評価テストテスト①②見直し&フォローアップ 国語分野(6:文章整序)					
	9	国語分野(6:文章整序)、数学分野(7:精算と割引料金)					
	10	国語分野(7:空欄補充)、数学分野(8:分割払い)					
	11	国語分野(8:長文読解)、数学分野(19:参考問題1)					
	12	国語分野(9:参考問題)、数学分野(19:参考問題2)					
	13	数学分野(13:集合)					
	14	数学分野(15:ブラックボックス、17:物の流れと比率)					
15	期末試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で授業内評価テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	セキュリティ基礎						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	木村 浩昌		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	情報セキュリティにおける各分野の基礎レベルの知識を習得する。セキュリティに関する問題点と対処方法を説明することができ、ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできるスキルを身に付ける。また、経済産業省主催 情報セキュリティマネジメント試験の合格を目指す。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。	
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。	
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 情報セキュリティマネジメント 教科書 令和4年度(インプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 情報セキュリティの基礎知識(1)					
	2	第1章 情報セキュリティの基礎知識(2)					
	3	第2章 情報セキュリティ管理(1)					
	4	第2章 情報セキュリティ管理(2)					
	5	第3章 情報セキュリティ対策(1)					
	6	第3章 情報セキュリティ対策(2)				1から3章までの用語の意味を確認しておく	
	7	第4章 法務(1)					
	8	第4章 法務(2)				4章の用語の意味を確認しておく	
	9	第5章 マネジメント(1)					
	10	第5章 マネジメント(2)					
	11	第6章 テクノロジ(1)					
	12	第6章 テクノロジ(2)				5から6章までの用語の意味を確認しておく	
	13	第7章 ストラテジ(1)					
	14	第7章 ストラテジ(2)				7章の用語の意味を確認しておく	
15	総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	課題・レポート	○	◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験対策春対策A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫野 マリ		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	7-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策秋対策A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	川野 啓祐・姫野 マリ		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	9-16	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							